



世田谷区 選挙マスコット
“セーボー”

ザ・せんきよ

R4.9.1
第 67 号

発行：世田谷区明るい選挙推進協議会・世田谷区選挙管理委員会

～ せたがや再発見 私たちのまちを歩く Part 48 ～

桜新町を歩こう！ 自然と歴史を探しに

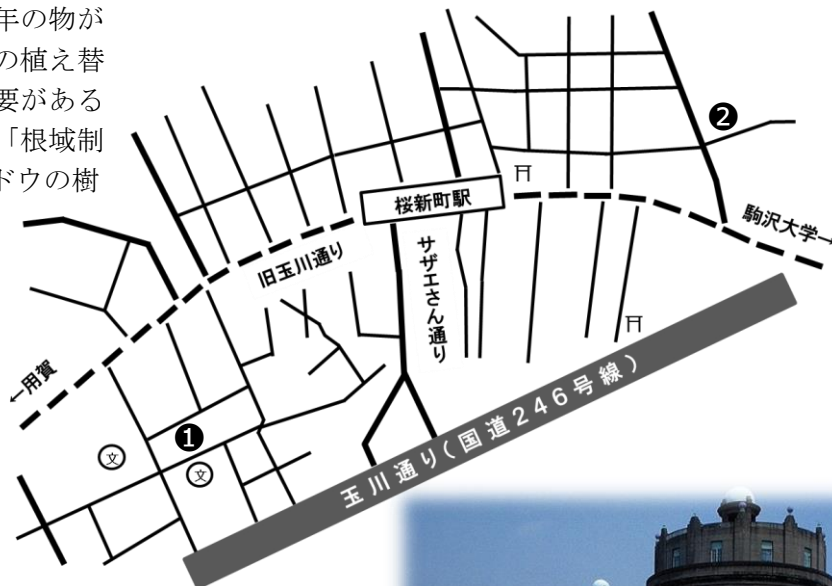
サザエさんの街として知られる桜新町。今回は桜新町の自然と歴史について探してみたいと思います。

田園都市線桜新町駅から用賀方面に徒歩10分、旧玉川通りから南に入ると住宅街に広い畑とブドウのビニールハウスが見えてきます。ここが、今回取材に応じて下さった飯田果樹園さんの農園です。

こちらでは、昭和54年からブドウの栽培を始め、現在は生食用の安芸クイーンと高妻、そしてワイン用のメルローという品種を栽培しています。安芸クイーンと高妻は8月下旬にもぎ取り(ブドウ狩り)で販売し、メルローは9月下旬に収穫後、山梨県の醸造所に運んで飯田果樹園産100%の赤ワインになるとのことでした。

取材した時は「粒抜き」というブドウの実の間引き作業中でしたが、果樹園の代表である飯田勝弘さんと後継者でありお嬢さんの亜沙子さんがお忙しい中園内をご案内下さり、ブドウ栽培についてお話下さいました。

現在の樹は世代交代のため植えてから4～5年の物がほとんどであること、根が広く張るブドウの樹の植え替え作業はとても大変で重機で畑を掘り起こす必要があること、作業を楽にし実の色づきや味も良くなる「根域制限栽培」という栽培法も試されていること、ブドウの樹はフィロキセラという害虫に強い台木に接ぎ木してあることなど、興味深いことをたくさん教えて頂き、ブドウを見る目が変わりました。



①飯田果樹園

次に向かったのは、桜新町駅から駒沢方面に徒歩10分、先端の装飾灯が特徴的な「駒沢給水塔」です。敷地内に入ることはできませんが、6月の滴る緑の中に聳え立つ高さ約30メートル、直径約15メートルの円筒形のコンクリートの二つの塔(双塔)を眺められます。



②駒沢給水塔

建てられたのは関東大震災の翌年の1924年で、1999年には老朽化のため配水機能は停止されました。しかし、地域のシンボリック存在だった駒沢給水塔を壊して欲しくない切望する地域の人たちが、駒沢給水塔風景資産保存会(愛称・コマQ)を結成し、保存活動を続けてこられました。現在では災害時の応急給水施設として、ほぼ当時の姿のまま管理されています。また、10月1日都民の日の夜、装飾灯が赤くともる予定です。是非皆さんも、双塔のそびえる風景を見にお出かけ下さい。

※駒沢給水塔については、区のホームページでもご覧になれます。

(<https://www.city.setagaya.lg.jp/theme/kanko/002/003/001/d00006120.html>)



明るい選挙推進委員の活動にご理解を！

私たちは、話しあい活動や選挙啓発を通じて、生活の中から政治を考え、有権者の選挙意識の向上に努めています。会員資格は「区内在住の有権者で、この目的に賛同し、明るい選挙の実現に意欲のある方」です。ご関心のある方は、ぜひ下記までお問い合わせください。



世田谷区明るい選挙推進協議会・世田谷区選挙管理委員会

〒154-8504 世田谷区世田谷 4-21-27 TEL 03-5432-2751 FAX 03-5432-3045
HP <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/007/index.html>

